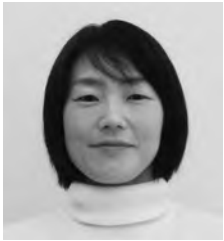
私の工夫

ESDの視点を活かした英語の授業づくり

岡山市立旭東中学校
教諭　安井　有香子



1　はじめに

東日本大震災から9年が経とうとしている。私は震災の日、千葉県八千代市で英語を教えていた。ちょうど6時間目の授業中だった。「とうとう来るべき日が来た。死ぬかもしれない」と感じた。千葉でも震度5強を観測し、私自身生まれて初めての揺れを経験した。その時の恐怖と不安は忘れられない。その後の余震やライフライン復旧までの被災生活、原発事故のニュース…。しかし、震災後の3月末に越してきた岡山には、全く何事もなかったかのような日常があった。そのギャップに驚いた。

天災の少ない岡山でも豪雨災害により、多くの方が犠牲になった。そして、今なお、苦しい思いをしている方が多くいる。

世界に目を向ければ、気候変動による豪雨、森林火災、台風、洪水、また、内戦やデモによる負傷者は後を絶たない。

このような現状から目を背けるのではなく、未来を生きる子どもたちのために、今よりも安心して過ごせる社会、平和な世界を残したい。

では、今の私たちにできることは何か。英語の授業はもちろんのこと、ESD（持続可能な開発のための教育）の視点での教育活動を通して、生徒たちに身につけさせたいことは何か。試行錯誤しながらやってきた実践を振り返りながら、三つの項目で紹介したい。

（1）世界を知ること、（2）クリティカルシンキング（批判的思考）できる力をつけること、（3）人とつながり協力すること、の三つである。

2　実践事例

（1）世界を知ること

総合的な学習の時間や道徳の時間に、キャリア教育、国際理解教育の一環として海外在留経験のある方（JICA（国際協力機構）でのボランティア経験者など）による講演会を実施した。また、岡山外語学院や岡山大学の留学生に協力を依頼し、交流した。「七夕パーティー」と題し、実行委員の生徒が司会進行をした。

ウガンダのワトト聖歌隊（エイズや内紛で親を亡くした子どもたち）との交流会では、空手や剣道、かるた、福笑いなど日本の文化や岡山の観光地を英語で紹介した。

ウガンダのワトトとの交流授業

これらの活動により、生徒は全く関心のなかった遠い国々が、とても身近に感じられるようになった。また、戦争のニュースや飢餓、水の問題などは、他人事ではなく、自分の知り合いの出身地の話として話題に出せるようになった。

（2）クリティカルシンキング（批判的思考）できる力をつけること

2年生の広島平和学習に向けて、事前学習を行った。日本はアメリカによる原爆投下の被害者であるが、一方で、中国や韓国の人にとっては戦争の加害者でもあった、ということを在日韓国人の講師の方にお話しいただいた。

また、3年生の英語の授業では、佐々木禎子さんについての単元を学んだ後、ちょうどその時、ニュースで話題になっていた福岡県出身の女子高生の動画投稿に関する英語の記事をリーディング課題として与えた。彼女が留学した町が「原子力の町」であり、住民が日本への原爆投下を肯定している中、彼女は勇気を出して、原爆投

下のキノコ雲の下にはたくさんの人々がいたということを訴え、高校生たちに考えるきっかけを与えた、というニュースである。さらに、アメリカの歴史の教科書に掲載されている太平洋戦争のページを読み、どのような記述になっているのかを班学習させた。

戦争を切り口として、日本、韓国、アメリカの3国からの視点で見た時に、同じ事実が全く異なる伝わり方をしているということに生徒は気づくことができた。

これはほんの一例だが、物事の本質を見極め、正しいことは何なのか、自分の目で確かめ、判断する力をつけさせたい。

(3) 人とつながり協力すること

英語の授業での基本的な活動単位はペアだが、これは1年生の時から徹底して行っている。隣が誰であろうと、授業での活動ではお互い楽しく会話できるように、アイコンタクト、笑顔、ジェスチャーの三つはとにかく繰り返し声をかけている。これは、社会に出て、誰とでも協力していくために必要な力となる。

そして、Let's Talkでは、必ずペアで、アレンジした会話を発表させている。道案内、買い物、電話などの状況における会話は将来、使う可能性が高い。授業では生徒の豊かな発想力に驚かされることが多い。買い物のスキットでは、実際にTシャツやバッグを商品に見立てて店員とお客をジェスチャー付きで演じるなど、毎回感嘆と笑いにあふれた発表になり、生徒も私も大好きな時間である。

次に、グループ（3～4人）での学習活動について述べてみたい。普段の授業では、スピーチやプレゼンテーションで練習や相互評価をする場合、グループにすることが多い。また、グループで行った活動や意見をクラスで共有したい時に、ジグソー法を用いることもある。一人一人が必ず発話する場を作り、生徒同士をつなげていく。

そういった普段のグループ学習以外に、学期に1回程度、大きな課題を与えて、それをグループで行う活動をしている。

2年生の「すし」についての単元では、「和食文化をＡＬＴ（外国語指導助手）の先生に発表しよう」というめあてを達成するために、グループで題材を決めて、分担して英作文をし、ポスターを用意し、暗記して発表に臨んだ。

また、広島や長崎での校外研修では、グループで外国の人にインタビューするという課題を与えた。2年生では外国の方に平和について意見を聞き、メッセージをもらった。お礼に折り鶴をプレゼントし、学校に帰ってから、そのメッセージの意味を考えて日本語訳をつけ、後輩たちに読んでもらえるように掲示した。

掲示したメッセージ

3年生の修学旅行では、「岡山の観光大使になろう」ということで、岡山の観光地をＰＲするカードを作成し、長崎を訪れている外国の方に「岡山にも来てね」とＰＲした。これは、美術科ともコラボした活動であり、美術の授業で岡山をイメージしたしおりを作成し、インタビューのお礼としてそのしおりをプレゼントした。

3年生では後輩たちに「英語でメッセージを残そう」とビデオレターを作成中である。

美術の授業で作成したしおり

3 おわりに

今回紹介させていただいた実践は、私一人の力で実現できたものではなく、英語科の先生方、学年の先生方、協力して下さったＮＰＯや関係者のみなさまの力添えがあったからこそ成し遂げることができた。まさに、人とつながり協力することの大切さを感じている。これからも楽しく多くの方と関わりながら、授業改善、教材研究をしていきたい。